

飛鳥資料館 冬期企画展 「飛鳥の考古学2018」

今回の展覧会では、2017年度に飛鳥・藤原地域でおこなわれた発掘調査の成果と、近年、調査分析の進展がみられた石神遺跡等から出土した多数の土器を展示します。

飛鳥中枢部においては、小山田遺跡(小山田古墳)で横穴式石室の痕跡が調査され、この古墳が石舞台古墳に匹敵する石室をもっていた可能性が高まりました。飛鳥寺西方遺跡では、飛鳥時代の石組溝や建物跡がみつかり、これまでの調査成果とあわせ、「槻木の広場」推定地における土地利用の具体的な状況がわかってきました。山田寺の西600m付近でおこなわれた山田道の調査では、古墳時代後期に造られた池や飛鳥時代中頃に敷設された山田道を確認しました。また、飛鳥寺北部域では、幅約1.5mの狭小なトレンチ調査でしたが、160点を超える軒瓦等、大量の遺物が出土しました。

さらに、飛鳥の周辺部においては、四条1号墳の再調査により、古墳の規模のより確実な復元が可能になりました。与楽古墳群にある与楽イモリ1号墳では、石室内から多数の副葬品がみつかり、渡来系氏族の奥津城の一端を知ることができます。

この冬は、これらの発掘調査と最新研究による飛鳥の新発見をぜひお楽しみください。(飛鳥資料館 若杉 智宏)



坂田寺跡 池 SG100
出土土器群

会 期：2019年1月25日(金)～3月17日(日)月曜休館(祝日の場合は翌平日)※2月3日(日)、24日(日)は無料入館日
開館時間：9:00～16:30(入館は16:00まで)

ホームページ：<https://www.nabunken.go.jp/asuka/> お問合せ：☎0744-54-3561

平城宮跡資料館 展示紹介 「資料館の中庭」

意外と知られていませんが、平城宮跡資料館は中庭にもいくつかの石製の展示品があります。サンルームの休憩室を出ると、右手すぐに高さ1mほどの標石が立っています。これには「従是東 平城宮(これより東、平城宮)」と刻まれています。戦前に設置されたもののようですが、詳細は不明で、現在調査中です。次いで、正面の池に注目。池の中には、6つの大きな石が並べられ、礫も敷かれています。これは、奈良文化財研究所が1969・70年(昭和44・45年)におこなった平城京跡左京一条三坊十五・十六坪の発掘調査で検出した園池の景石等を移築したものです。最後に中庭北西隅をご覧ください。とても大きな立方体の石が目に入ります。これは、平城京の正門である羅城門の礎石です。1935年(昭和10年)の佐保川改修工事の際に、羅城門があった大和郡山市来世橋付近でみつかった4つの礎石の内の一つです。



資料館の中庭

平城宮・京の調査研究と保存の歴史を伝える資料館の屋外展示資料にも、ぜひご注目ください。

(企画調整部 加藤 真二)

■ 記 録

文化財担当者研修(専門研修)

- 遺跡情報記録課程
2018年9月18日～9月21日 21名
- 低湿地遺跡調査課程
2018年10月3日～10月5日 8名
- 保存科学I(金属製遺物)課程
2018年10月9日～10月17日 12名
- 文化財写真課程
2018年11月26日～12月6日 20名
- 報告書編集基礎課程
2018年12月13日～12月20日 15名

第123回公開講演会

2018年11月10日(土) 163名

飛鳥資料館 秋期特別展

10月5日(金)～12月2日(日) 7,492名

「よみがえる飛鳥の工房一日韓の技術交流を探る」

平城宮跡資料館 秋期特別展

10月13日(土)～11月25日(日) 15,853名

「地下の正倉院展—荷札木簡をひもとく—」

現地説明会等

- 東大寺東塔院跡発掘調査
2018年11月11日(日) 1,148名
- 平城第602次調査(東区朝堂院)
2018年12月15日(土) 569名

■ 最近の本

- 『デジタル技術で魅せる文化財—奈文研とICT』
(株)クバプロ 2018年4月

編集 「奈文研ニュース」編集委員会
発行 奈良文化財研究所 <https://www.nabunken.go.jp>
Eメール jimu@nabunken.go.jp
発行年月 2018年12月